

討論

司会 高山隆三会員

島崎 総合農政派がしっかりとしとくことの意味と彼等が地域農政派になつて行くことの関連性についてお話し下さい。

広瀬 ベトコンは農政全体についての関心はほとんど皆無で、これにくらべればという意味です。総合農政派が農政のベテランといふことではありません。しかし彼等が農林官僚の意向を代表して行動していくことは間違いない。総合農政派は米価を抑えろといつて表向き憎まれ役になります。それで何故選舉が出来るかというと、機械導入とか温室向けの補助金とかの専業農家向けの補助金は総合農政派に頼むのが一番通りがよいのです。つまり表向き憎まれながら取るものは取つてるので、大会で農民に大きなことが言えるのです。彼等がどうして一見本来の農業と関係のない様な地域補助金に

関心を示し出したのかと言うことですが、村落振興などの補助金を作った渡辺美智雄氏によると「こんな評判のよい補助金はない。何にでも使えるしそれが眼目だ。しかも農林省だからこれがつけられる。」つまり彼にとって農業本位と農村向けは別のもの。農業は生産に通することをやって行く、他方地域農政の方は選挙むけに考え出した。これを国会や国民に説明するのに農林省の官僚が地域農政という言葉を考え出したのではないでしょうか。

島崎 総合農政が出てくるのは西村農相の声明が出た昭和四二・四年からでしょう。しかし中身は総合農政といったものではない。本当の中身は合理化だと思いますが、互にバラバラになっていたものを何となく総合調整しただけのものにすぎない。

広瀬 おっしゃる通りです。自民党的政調部会とは別に調査会を作ることになつた際、総合という言葉が自民党用語としてつくのです。だから総合安保調査会と言つた意味での総合で、農業の総合ではありません。

島崎 党人派官僚派という違いはあるのですか。

島崎 農林関係には官僚派は少ない。農林には田中派が多い。田中派の議員が各地で沢山出てくる一つの理由は、農林補助金をふんだんにつかえるから。これと対壁をなすのは土木関係の公共事業です。この二つとも田中派の支配部門で、それにつけての青嵐会組が発言力を持つてゐるということです。

高山 村づくりでタテ割り行政にうまくはまらない分野に農水省が出て行こうとすると自治省が反発する。しかし今大きく対立するの建設省ではありませんか。

広瀬

票を農水省と奪い合うという点では建設が一番激しい争いを

してきた。全国区議員の制度があつた頃、農林省は農協を母胎とした官僚と土地改良を基礎にした官僚と毎回二人ずつ出した。そして農協と土地改良の政治連盟が票集めをしたのですが、一方建設省の方も全国を二つに分けて東と西に二人立てるのです。この土地改良の中身は土木工事なので、建設のしめつけも大変きびしい。河川道路の臨時日雇に農村から出て行く、近くで工事をやつてもらうと大変有難いので工事に雇われた農家にはそちらの方からのしめつけがある。そういうことで選挙では農林・建設が激しい喧嘩をして来たが、政策面での対立というのは私には分らない。

高山 今回の農振法の改正に、水を通じて、各部落の水利組合等が盛られている。建設省の方は水は公用だから、一級二級河川のみならず末端の下水排水の管轄も農林省ではなく自分達がやらねばならないと主張します。財政が苦しくなつていてるなかで、自分達の事業を拡大しようとするとき農山村の下水道まで自分の管轄下に置く権利を、建設は保留しておきたい。この地域農政の問題は自治・農林・建設もからむ問題で、農林と建設の争いが現在とくに激しい。公共事業のしめつけで地方の中小土木事業が非常に苦しくなつてゐる。そうすると、その金を農林省を通じて出すのかあるいは建設省を通じて出すかで、また基盤が違つてくるのではないかでしょうか。

広瀬 その通りです。金を出す方が強い訳で。その点に関しては役人は一步も譲りません。各々を応援する議員が居る訳ですが、建設

・農林共に田中派が強いですから、その辺で調整もされて行くのでしょうか。

高山

臨調では農村環境整備に関する支出し、コミュニティづくり

や集会所の建設をなぜ農林省がやらねばならないか、についてのきびしい批判が出たが、農林官僚はその説明に苦しんだ。臨調がらみで地域農政が押え込まれることはありませんか。

廣瀬 生産密着型の補助金は出るだけ出してしまった感じです。それを有効に使って行く連中は、むしろ融資の方が補助事業より自分達の思う規模で思う様なものが出来るから都合が好いと考えており、最近は機械類などが融資制度に変って来ています。そういう意味で、生産面での補助金は余り必要ではなくなって来ている。

一方地域農政の方も金額的には横道ないし減り気味です。ただし、農水省の事業のなかのウエイトは上がって居ります。臨調の議論は直接の影響力はありませんし、相手もそれを無視して行くでしょう。しかし長い眼でみれば、国民の納得の行くヴィジョンを出さない限りのまでは先細りかも知れません。シーリングが出て来てから農林省の対応も箇所数を減らすという安易な削減をやっている。

そうするとますます効果も怪しくなり、長期的稳りは期待出来なくなります。

高山 農村補助金を通じての集票組織に関し、票集めの時に自民党政権にとつて、地域農政において集落に眼を向けたことがどんな意味をもつのでしょうか。

廣瀬 自民党の票は党の票でなく後援会の個人票です。後援会の中核は、地方の首長、県会議員、市町村議員、三番目が土建業者です。

後援会のなかでは首長、議員は大変影響力があります。所でこの人達にとって一番重要なのは、住民に、市町村の予算の増額とか目立つ施設をつくるとか、実のあることをやらねばならないということ。地域農政の利点は、そういう地方の首長、議員が喜ぶことです。そ

ういう補助金を自分の支持する代議士が取つて来れない様だと応援の仕甲斐がないのできつと有力な人の所に行つてしまします。逆に中央で言えば、農林族に属して農林予算の獲得に頑張らないと、議員というだけでは補助事業は通りません。有力でなければ地元の首長が議員の支持の理由もない訳で、補助金を廻つての利害共同の関係が出来てくる。地元民や有権者一般が有難がつてくれるより、市長と議員さえ忠誠をつくしてくれればよいのです。そこが補助金のキイボイントです。

高山 補助金が生産密着型から農協関連型に移行して来たというお話しがありましたか、現在は農協組織から市長・議員・部落長の喜ぶような補助金体系に推移して來ているということですか。

廣瀬 そうです。ただ、農協も中核のなかに入りますが、農協の票は危険分散で何人かに分けられます。その点、首長や議員はハッキリ支持者を名乗れる訳です。

島崎 今の話は、部落長ではなく首長、つまり市町村長ですね。

廣瀬 そうです。

島崎 首長と部落長は段階が別です。集落といつ時は部落で、部落長のもつてゐる票は数としては多くはない。大量にもつてゐるのは首長です。だから地域農政が集落にまで降りるにはまだ一段階あるのです。

廣瀬 それが問題ですね。ただ市長が何かをやるばかり、市一般でやる訳には行きません。部落単位に具体的事業が考えられるのです。高橋正郎 地域農政対策事業の立案過程で政権党はどういう役割を果したのでしょうか。

廣瀬 総合農政派には政策立案能力はないと思います。感覚的に生

産密着型の補助金よりも地域の方が喜ばれることを察知してそう言
う予算を農林省に取つてくるのですが、それを新しい農業政策でオ
ブラーにつつむのが官僚です。つまり自民党が喜ぶものを官僚が
政策化したのではないでしょうか。

高橋正郎 しかし現実に立案段階で、官僚は自民党農林部と密接に
コンタクトをとっています。その時、推進機能なしチェック機能
は働くのでしょうか。

広瀬 農業は比較的自民党と官僚の呼吸が合う領域です。農林官僚
は自民党的意向を入れて政策をつくります。通産・大蔵は自民党と
のフリクションが大きい。農林と郵政はその点一番お互い上手にや
やつております。

島崎 農政における団体・政党・官僚の三位一体関係が以前田口氏
より指摘されましたか、三位一体の政策決定における実際の役割関
係はどうなのですか。

広瀬 かつては農林省が中心だったのです。小倉武一氏の頃は……。
最近は政党の所が突出して来ているのです。

高橋明善 六〇年代の終り頃は農林省がある方向を探そうとしてい
たと思います。それが自民党サイドに吸い込まれ、そうしないと予
算もそれなくなってくる。

広瀬 自民党が米だ米だと言つていた間は農林省が農政を推進して
いたが、予算がそれなくなつてから自民党的リードが強まつたので
す。

高橋明善 この前の構造改善局の方の御報告で集落再編事業がこれ
しかないのでという形で紹介されました。つまり集落を利用して土
地の流動化を図るという政策の筈ですが、それが自民党的地域農政

派によってどの様に取扱われることになるのか、地域農政派の要求
に全面的に吸収されてしまうのでしょうか。

広瀬 それより、私は早晚、農林省の言う連帯とか共同体意識とか
言ったものへの依存が行き詰るのではないかと思います。かつて中
核農家育成が図られ、いろいろなことをやつて都市などの所得の得
られる自立經營農家を発展させようとしました。しかし構造改善を
やつて何年たつてもその比率はふえず、最近はそれを言わなくなつ
てしまい、補助金もそれなくなりました。そこで問題を土地の流動
化に移行させ、土地の流動化を共同体的話し合いで図つて行こうと
いうプランを打ち出しました。しかしその考えは、終戦後農林省が
集団で経営効率を上げようとした時期からのことで、失敗の歴史が
またはじまるのではないかでしょうか。（笑）

吉沢 新聞社が自民党的補助金の配分機構を批判したら圧力を受け
るのですか。

広瀬 いや受けません。彼等は全然痛痒を感じないのです。後藤田
さんにこの間会つた時、「今後の改革でも補助金は最後まで残る。
政権の基盤をくずす改革など毛頭やる気はない」という話で、官僚
機構や国鉄・電々を若干いじるのが彼等が考へている改革の最後の
線で、補助金配分の公平化などは全く念頭にないですね。

黒崎 補助金を沢山もらう所ほど建設業従事者の比率が高くなる。
また、そういう所ほど求人倍率が上がらない。補助金の取れない所
がむしろ上がって来る。そういう事実を新聞社の調査網で明らかに
できれば、補助金中毒からの脱却の糸口となるのでは。

広瀬 仰る通りです。新潟県の補助金は全国一高いのですが、人口

・所得ののびはえらく悪い。補助金がなければもっと落ちるのだと

いう言い方をするかも知れませんが、隣の富山・石川はちゃんとのびてゐるのです。矢張り地域の人自分達の生きて行く道を考えないで補助金に頼つていたのでは何もならないのだということが如実に出てゐるのではないでしようか。

高橋明善 朝日で一度実態を明らかにしましたね。他人依存的なやり方ではよくなる筈はありません。島根のばあい、大地主のいふところはひどく退屈的です。……

吉沢 農林官僚の哲学の喪失といふ御指摘がありましたか、……官僚にも農業のヴィジョンがあるのではないか。ただ、自民党の長期政権のなかでリーダーシップがとれない無力感が災しているのであります。

広瀬 ……昔の門構えが大き過ぎた矛盾みたいなものがあるのではないかでしょ。うか。小さければ小さいなりに、ヴィジョンを作つて生産向けのことを地道にやつて行けばよいのでしきが、その自信もなくなつてゐる。

島崎 うつかりすると自己否定の論理となるのです……

広瀬 村づくりなら何故農林省がでこなければならないのかと言わぬかね。先に自治体中心の村づくりのキャンペーンをもつと新聞がやらなければならぬのですが、仲々うまく行かないのです。悪いことは多額の退職金とか自治体の様々な問題がいろいろニュースになつて出るので、財源の地方議論は説得力がないのです。

島崎 巨大な官僚制維持のための農政の面がかなりあるのですね。

高山 しかしその市町村にまでつながつた巨大な官僚制がまた自民党の基盤になつてゐるので、そう簡単に臨調などで農林省を縮少することはできないのです。

広瀬 そうです。役場の産業課長や農政課長は大変な力を持つておられ、農水省と直接つながつてゐる。知事の言うことさえ聞かない農政課長がいるのです。……

高山 ですから村づくりといふソフトな面まで予算を取つても意味ないけれど、組織を維持するために予算要求をつづけて行くといふやり方が当分つづくのではないですか。

島崎 ベトコンと総合農政派以外に地域農政派といふのはあるのですか。

広瀬 それはありません。

島崎 東畑さんとそれにつながる政治家が地域農政派的系譜で、小倉さんなどとは仲が悪い。あるとすればこれが地域農政派では……

広瀬 地域農政といふのは地域補助金正当化のための次元の低い考え方の様に思ひます。……

高山 著書は参院選挙を中心に分析しておられるが、今度比例代表制になつて、官僚と補助金の関係はどうなつたのでしょうか。

広瀬 どうなるのかと考へてゐる所です。三年に一回の全国区選挙は各役所の力の点検によい機会でした。これが比例代表制になるとそうはいかなくなります。これからは候補者に官僚を取る必然性はなくなります。官僚は自分達の力を示すチャンスだから頑張る訳で、どこに行くか分らぬ票のために危い橋を渡ることはないと思ひます。勿論党員集めの段階では役所をフルに利用しているケースもあります。しかし名簿の名前集めと一票とのとではまるで違います。

高山 比例代表制が定着すると補助金との関係はどうなりますか。

広瀬 代議士中心の配分といふのは従来通りですね。ただ田舎の町長・市長が大蔵省・建設省に陳情に来た時の、何票とったかの報告

はなくなります。市町村と各省との直接のつながりは次第に薄くなるかもしない。しかし代議士の介在と世話はつづくので本質的には変わらない。市町村長は省別の票集めのノルマから解放されて助かかつたのではないでしょうか。

高山 現在の財政困難のなかでも補助金体制は続くのでしょうか。

広瀬 現体制は自民党支配のつづく限りは変わらないと思います。仮に自民党が半数を割れば民社党が連合する。すると民社党の利益になるような若干の補助金制度が新たにつくられるかも知れません。制度全体は変りません。最近は公明党なども補助金の配分に関与し出しています。これは市民相談室を作り出した頃からそうなりました。公明党の与党化が進みますと現体制機構への関与が強まります。社会党が代っても同じことではないでしょうか。

(一部カット、文責は事務局)